

注(1) すいび。山の八合目。

注(2) すうえい。数列。楹は柱、また家屋を数える数詞に添える語。

資料 奥州仙台領遠見記

仙台郷土史夜話（三原良吉）

7. 「磐前県」はどう読むのか

問 「宮城県郷土史年表」（菊地勝之助）の明治4年4月22日の所に『刈田、伊具・亘理の三郡は宮城県より分離して磐前県に併せらる。』とあります。この磐前県をどう読むのでしょうか。同書の索引を調べたら「ハ」の「磐溪先制の刊行」と「磐梯吾妻スカイラインの開通」の間に「磐前県」が組込まれています。これよりもと「ばんぜんけん」と読めばよいのでしょうか。

答 「磐前県」は県庁が磐前郡平に置かれたので、磐前郡の郡名をとって県名としたものです。この「磐前」の呼び方は、「ばんぜん」ではなく「いわさき」であります。もと「岩崎」〔いわさき〕だったのが、寛文〔1661～73〕年間に「磐前」〔いわさき〕となったものであることを「大日本地名辞書」第7巻（吉田東伍）は、次のように記しています。

『^{イワサキ}磐前郡 明治廿九年〔1896〕廃号、其地は皆石城郡へ入る。元来磐城の分郡なれど、其西南偏に之を名づけ、古唱イハガサキなるべし。（中略）国郡沿革考伝、中世磐城郡に^{イハガサキ}岩崎、楢葉二郡を分置す。東鑑〔あずまかがみ〕、文治五年〔1189〕已に岩崎の名あり。近世正保〔1644～48〕図に岩崎、楢葉の郡名見え、寛文中〔1661～73〕岩崎を磐前に改書す、今之に仍〔よ〕る。』

この磐前県は、明治4年11月2日在来の磐城平県・湯長谷県・泉県・三春県・相馬県・棚倉県・中村県の7県を統合して新設された平県を、同月29日にこのように改称したものです。その管轄は、磐城国行方〔なめかた〕・標葉〔しめは〕・楢葉・田村・磐城・石川・菊多・白河・磐前の9郡でしたが、明治9年4月18日〔「地方沿革略譜」内務省図書局。明治15〕宮城県から磐城国亘理・伊具・刈田3郡を分離して、この磐前県に編入しました。それから4か月後の8月21日、磐前県は廃されて福島県に編入されました。その際、亘理・伊具・刈田3郡は宮城県の所管に復帰して今日に至ったのであります。

注(1) 吾妻鏡。全52巻。鎌倉幕府編。半漢・半和文体の鎌倉幕府の事蹟を日記体に編述した史書。治承4年〔1180〕から文永3年〔1266〕前將軍宗尊親王の帰京に至る87年間の我国最初の武家記録。

注(2) 明治元年〔1868〕12月7日、陸奥国を分割して、磐城・岩代・陸前・陸中・陸奥の5か国

とした。(出羽国も羽前・羽後の2国に分割。)これらの区画は、主に地理的区分であったが、現在でも磐城の平とか、磐城角田駅、陸前高砂駅などという用い方に残っている。磐城国には白河(東・西)・石川・田村・菊多・磐前・楢葉・標葉・行方・宇多・伊達・亘理がこれに属していた。翌2年12月に至り、伊達を岩代国に入れ、刈田・伊具を岩代国から割いて磐城国に属せしめた。

資料 大日本地名辞書第7巻(吉田東伍)
地方沿革略譜(内務省図書局)
地名索引(内務省地理局)

8. ヴァンリードか、ウェンリードか ウェンリートか

問 大池唯雄著「炎の時代」を読みましたが、星恂太郎の兵学の師で、高橋是清少年のアメリカ行を世話した人物の名が、ヴァン・リード、ウェンリード、ウェンリートと三様に書かれています。どれが正しいのでしょうか。

答 「炎の時代」には「ヴェン・リード」がP88に2か所、「ウェンリード」がP349, 353, 361, 362, 364, 365, 484, 485, 511, 518に合計23か所、「ウェンリート」がP346に2か所、三様の表記が見られます。一体外国人名(地名・外来語等を含めて)を、仮名文字でどう表記するか、正確さを追究すればする程、際限のない課題であります。この人物の姓名の原綴 Van Reed, Eugene M. の仮名表記として、上記のいずれが誤りで、いずれが正しいと決めつけることはできません。ゲーテの場合など、20通り以上の仮名表記がある程です。ヴァン・リードについては、この外にも別様の表記が行われていますので、念のため次に掲げて置きます。

1. ウエンリト(「横浜みやげ異人館番附井人名」。明治初年。)
2. ウエンリート(「仙台戊辰史」(藤原相之助)。「仙台額兵隊記」(片平六左)。)
3. ウェンリート(「横浜奇譚」(錦港堂、明治初年)。「炎の時代」(大池唯雄。ヴァン・リード、ウェンリードとも表記)。「大和町史」下巻。)
4. ウェンリード(「炎の時代」(大池唯雄。ヴァン・リード、ウェンリートとも表記)。
5. ヴァンリード(「高橋是清自伝」。「郷土史事典宮城県」(佐々久)。)
6. ヴァン・リード(「岩波西洋人名辞典」(昭和7年版。31年版)。「炎の時代」(大池唯雄。ウェンリート、ウェンリードとも表記)。「世界伝記大事典」第3巻(ほるぷ出版)。)